

【高等学校用】

令和5年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	佐賀県立佐賀商業高等学校 全日制課程
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領に沿った計画的な指導、評価の実現に向けて取り組みを進めている。今年度もも対応科目が増加するため、引き続き指導のレベルアップを図る。 ・新型コロナの収束に向けた流れの中で、生徒同士の人間関係のトラブル等が増加することが予想されるため、いじめ防止や情報モラルの指導を充実させる必要がある。 ・基礎学力の向上と、学習習慣の定着を目標にし、部活動と勉強の両立に取り組む生徒を育成する指導の充実を図る。
2 学校教育目標	SDGsの理念のもと、持続可能でよりよい世界の実現を目指した質の高い教育を行う。各学科の特色を生かし、自治体・高等教育機関・地域の産業界等との協働・連携による実践的かつ探究的な教育活動の充実を図り、グローバルな視点でコミュニティを支える地域のリーダーを育成する。また、Society5.0時代の到来により、地域社会・国際社会に貢献できる商業人として、必要な知識と技術を習得させ、社会に必要なマナーやモラルを身に付けさせるとともに、何事も自ら考え行動できる生徒の育成を目指す。

3 本年度の重点目標	(1)「他者を思いやる」発言や行動ができる生徒を育成する (2)自ら学ぶ姿勢を育み、確かな学力を育成する (3)自分の考えをわかりやすく伝えることができる生徒を育成する (4)地域の期待に応える魅力ある学校づくりを推進する (5)働き方改革を推進し、教育の質の維持向上を目指す
------------	---

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目							
評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○新学習指導要領に沿った、主体的な学びを重視した授業の推進	○教員の授業力向上 (相互授業参観を年間1回以上実施)	・教科会の充実を図り、各教科で新たな評価基準を検討する。 ・教員相互の授業参観を年1回以上実施し、指導力向上を図る。 ・学習支援システムを利用し、朝の学習、家庭学習の充実を図る。				
	○自ら学ぶ姿勢を育み、確かな学力を育成する	○2年次以降の学力診断テストで、Bゾーン50名以上、Dゾーン30名未満					
	○家庭学習時間の確保と学力向上	○家庭または通学中の隙間時間を活用して、学習に取り組む。(目標:毎日30分以上) ○スタディサブリの取組状況(アクティブ率)を90%以上達成する。	・手帳の記入を通して、自己管理能力を養成する。起床時間、睡眠時間、学習開始時間を毎日記録することで、家庭での学習時間確保と習慣化を図る。 ・今年度より1年生と2年生に導入された「スタディサブリ」を活用し、個に応じた課題を配信する。 ・完全下校時間を守り、家庭での学習時間を確保する。				
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○スクールカウンセラーの積極的活用(来校時間のうち相談件数65件以上) ○多様性を認め合える人権教育 ○図書館の来館者数、貸出冊数の増加(1冊以上本を借りた生徒の割合60%以上)	・スクールカウンセラーによる「SOS出し方講座」、「特別支援教育職員研修会」を実施する。 ・教育相談だよりを発行する(年間7号以上)。 ・性的マイノリティへの差別等の身近な差別について、生徒自らが考える活動を取り入れた人権教育のLHRを各学年1回実施する。 ・環境整備、情報提供、蔵書の充実を図る。				
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○生徒の情報共有の徹底 ○佐賀商業高校いじめ防止基本方針に則った未然防止・早期対応と再発防止	・個人面談(4月、9月)、Hyper-QU検査(1回)、生活状況調査(いじめ等のアンケート・各学期に1回、計3回)を実施し、生徒の学校・家庭での状況を知り、何らかの問題があれば学年団との情報共有を図る。 ・生活状況調査(いじめ等のアンケート)の回答率アップに努める。 ・いじめ防止強化月間(5月・12月)における啓発活動の実施				
	○モラル・マナー教育の充実	○「情報モラルを守っている」「挨拶や礼儀を身につけている」と回答できた生徒を90%以上とする。 ○生徒会の各種委員会による主体的な啓発活動と取組の推進	・年間2回、情報モラルアンケートや学校生活における、自己チェックを実施し、モラルの向上や意識づけを図る。 ・情報モラル教育では、関係外部機関との連携による講演会(リモート含む)を実施する。 ・生徒会長を中心として、学校生活における規範作りと、生徒の主体性を引き出す雰囲気作りを行う。				
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」生徒90%以上	・保健体育や家庭科の授業、部活動の中で、食生活の重要性を指導し、生徒の意識を高める。 ・保健だよりで、健康維持のために必要な情報を提供し、生徒の健康に対する意識を高める。				
	●「安全に関する資質・能力の育成」	●生徒の生活事故・交通事故を0(ゼロ)にする。 ○「健康や安全に配慮して生活を送っている」と回答した生徒90%以上 ○防災意識の向上と感染症予防の徹底	・交通安全・防犯について関係機関と連携し、講話を開催する(6月・7月)。 ・常に佐賀生としての自覚をもち、規範意識を高める。アンケートを各学期に1回実施し、日頃の生活態度等の確認や見直しのきっかけ作りを行う。 ・防災避難訓練を実施する(2学期)。 ・学校感染症の最新情報の広報を行う。 ・保健委員会生徒を中心に感染症予防の呼びかけを行う。				
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限の遵守 ○時間外勤務の時間数を年平均で5%削減	・定時退勤日(月曜)の設定と掲示や口頭による啓発を行う。 ・長期休業中における学校閉庁日を設定する。 ・学校基本方針に沿った部活動の活動時間および休養日を徹底する。				
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○有給休暇の積極的な取得推進と教員の意識改革	○有給休暇の取得を年間14日以上の職員を45%以上 ○会議とその時間の削減(1時間以内)	・有給休暇を取得しやすい職場環境づくりに努める。 ・情報共有や資料提供などの連絡については、校務システムのメッセージやメール機能を活用し、会議の削減を図る。また、会議時間1時間以内を徹底する。				

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目							
評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
★唯一無二の誇り高き学校づくり	★実践的・体験的な活動の充実と県内外への情報発信	★自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合80%以上、教職員の割合90%以上	・ホームページの更新を月2回程度行う。学校だより(月1回)、中学生向け進学説明会や体験入学、中学校訪問、佐賀新聞等のメディアを活用した情報発信(毎月1回以上)など、広報の更なる充実を図る。 ・部活動、学科単位で地域のイベントへの参加や企画の提案を行う。				
○活力ある学校づくり	○3年間を見通した系統的な進路指導の充実	○学年段階に応じたキャリア教育と3年生の進路確保(目標:進路決定100%)	・進路実現100%という最終目標に向け、学年に応じた段階的な目標を設定し、学年団と連携しながら指導を行う。 ・系統的な指導のため、生徒の活動の記録を効率よく確実に管理する手段を検討する。				
	◎高い志を持ち、自らの目標の実現に向けて主体的に取り組む生徒の育成	○★生徒を主体とした取組の推進 ◎「学校生活が充実している」と回答した生徒90%以上	・生徒会の各種委員会が自ら課題を設定し、学校活性化のために具体的に取り組む。 ・全校生徒に対して学校生活に関するアンケートを年間2回実施し、要望を集約し、積極的に改善に向けて努力していく。 ・生徒と保護者によるルールメイキングプロジェクト委員会を組織し、生徒が自ら考え行動する機会を設ける。				
	○各学科の特色を生かした取組の推進と広報活動の強化	○★グラデュエーションポリシーに沿った各学科の特色を生かした教育活動の充実	・進路目標達成を目指し、社会理解や職業理解を深める。また、課題研究などを通してプレゼンテーション能力の向上に努める。(商業科) ・グローバル社会に共生するための助言を受け、海外留学生との交流を図る。また、日本文化の体験学習を充実する。(グローバルビジネス科) ・デジタル化・ネットワークに関心を持ち、専門教科の学習への意欲を高め、専門知識の深化を図る。(情報処理科)				

5 総合評価・次年度への展望	●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育 ★...唯一無二の誇り高き学校づくり
----------------	---